

伊賀市議会政務活動費明細書

伊賀市議会議長 様

報告者  
議員名

木野 弘子

支出項目

調査研究費・研修費・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費

人件費・事務所費

(該当項目に○をつけて下さい)

内 容

日付	明細	領収書等の 金額 (円)	按分率	金額 (円)
9/6	広報費	132,000		132,000
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
計				132,000 円

領収書等添付用紙	議員名	桃井弘子
----------	-----	------

調査研究費・研修費・**広報費**・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費  
 人件費・事務所費 (該当項目に○をつけてください。)

項目ごとに領収書添付

- ・領収書等は情報公開に備えて、重ならないように添付すること。
- ・両面になっているものは、全面に糊付けせずに裏面が確認できるように添付すること。
- ・A4以上の大きさに貼り付けるのが適当でないものはそのまま添付すること。
- ・足りない場合は、裏面を利用せずに新しい用紙へ添付すること。

領 収 証

桃井弘子 様

No. \_\_\_\_\_

★

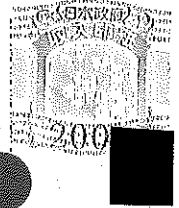
¥ 132,000-

内 訳	但
現金	
小切手	/
手形	/
消費税額等(%)	

2024年9月6日 上記正に領収いたしました

看板・塗装 大和 工芸

〒518-0836 三重県伊賀市緑ヶ丘本町4164-1  
 TEL0595-23-0226・FAX0595-23-1408



コクヨ ウケ-98

- ・発行部数 2,200部 紙代折込
- ・上田議員、田中議員、桃井議員、増田議員  
 4人平均割り

# 令和ネコのあくび

第2号 発行日 2024年8月



## 連絡先

田中ざとる  
24-6661  
maruichi101@gmail.com  
ももい弘子  
47-0234  
mhym26@gmail.com

上田のりひさ  
21-0715  
norihisa232181@gmail.com  
増田たけし  
21-0532  
masumasuiga@gmail.com

## 副議長立候補所信表明 全文紹介

皆さん、こんにちは。この度、副議長に立候補させていただきました。桃井弘子でございます。立候補にあたり、所信を述べさせていただきます。

この四月からまた2000品目以上の生活に直結する物価が高騰しました。同時に国民負担率が50%に近づき、市民の暮らしに明らかな問題が見えま。格差社会と言われる中、少子、高齢、その上人口減少が顕著な伊賀市の、その市民アンケートによると、市民の行政満足度が平均5割を満たしていません。市民個人や39自治協の課題も多様化し複雑化をしております。

このような時代だからこそ、議会が持つ2つの機能、すなわち「議決」と「評価」の機能を強化することが求められていると思えます。議決については、議会が一層の責任を持つことが市民、言い換えれば納税者にとつての満足度を向上させる議決であるかどうかを自問する必要があります。また評価については、費用と効果の検証に、議決と同じように一層の責任を持つことも重要と考えています。特に、評価によって次年度の予算に反映され、それによって市民満足度を上げていくことは、つまり議会の重要な役割と考えています。

そのためには、

①市長から提出される各施策の、その背景にある目的対象、予想される効果などは、議員全員協議会や常任委員会において説明を求めたいと考えています。つまり、説明を標準化することにより、全ての施策を比較対象、検討をしやすくなることを期待したい。

②その上で、課題や問題を抽出し、極力議会の総意としてその解決方法を提言する仕組みづくりも努力したいと考えています。つまり、政策討論会の積極開催によって、条例制定、政策提言、制度政策要求などを議会の意思として伝えることにより市民の思いを伝えたい。

③また、大学生議会の開催は大変意義のあった事業だったと考えています。本年度も開催したいと考えています。またできる事ながら、年齢年代別や地域別、職種別、子育て世代等々の意見聴取に、議場を使って議会との情報交換会も開催してみたい、と考えています。議会は、広報公聴機能の充実が大切な役割と考えています。最後に、当然私は議長を補佐し議会運営に全力を尽くしますが、双方2期目であつて経験不足は否めません。議員の皆様は格段のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

## 決意 議会から議会をただす

自民2会派、公明、草の根、共産と、ほとんどの会派の推薦を得て、令和6年度副議長に就任しました。所信表明演説の素案について、個人の議員活動にとどまらず、議会全体の方向性を示し、議会の役割の中で、不十分さが顕著に表れている「責任」について、議長を支え、そして、副議長の責務を果たせるよう、作り上げました。また、共に活動してきた会派の意見を参考に、主婦・主夫、子育て世代、田舎暮らしの日頃の思いを込めて決意表明をしました。

## 大山田地域複合施設

大山田地域に点在している、7公共施設の令和4年度の決算額は合計で約2300万円、合併して20年、つまり20年間で5億円弱の施設維持管理費がかかっています。

内訳は、大山田農村環境改善センターは456万7607円、旧大山田支所は237万8530円、ライトピアおおやまは531万739円、大山田保健センターは538万9863円、大山田福祉センターは399万6023円です。点在している7公共施設のうち3施設は土地建物借上料も含まれていま

## 校区再編は待たなし

子どもたち目録での

す。内訳は、大山田農村環境改善センターは68万6400円、大山田保健センターは101万2400円、ライトピアおおやまは65万5100円です。税収の減少が見込まれるなか、不必要な経費の削減を早急に進める必要があります。

大山田複合施設に関しては、プロジェクトチーム会議が開催され、複合化に向けた課題の洗い出しや、基本構想策定に向けたスケジュールを協議しています。令和7(2025)年4月の計画策定に向け、小中一貫校も含む伊賀市立小・中学校の校区再編計画が協議されています。伊賀市の出生数を鑑みた時、平成19(2007)年度の834人が令和5(2023)年度で419人と減少の一途であり、市内で必要な小・中学校の規模も自ずと見えて来ます。

大山田中学校のような小規模校では、小学校からの義務教育9年間クラス替えがないこと、また中学校の部活動の数の減少が課題になっています。保護者からは、子どもたちの教育環境を考えた時、近隣の城東中学校に何故通わせられなかったのか等、不満の声があがっています。子どもたちの平等な教育環境、また多様な子どもたちとの触れ合いによる切磋琢磨や向上心を第一に考えた時、学校の適正規模は伊賀市全体で小学校5校、中学生3校程度ではないでしょうか。

統廃合を見据えた大規模改修、また施設維持経費を有効に活用すれば、よりよい教育環境に予算を充当することもできます。今まだ議論の途中ですが、私たち各派はしっかりとチェックし、全ての子どもたちの教育環境について議論を重ねていきます。

(投稿・桃井弘子)



※ 単独より複合がゼツタイお得!

## 【統廃合に伴う改修】依那古小学校統合改修工事(上野南小学校)

最終契約金額合計	補助金額	市の起債額	市の一般財源
254,558,700	115,563,000	108,700,000 内71,260,000は交付税措置あり	30,295,700

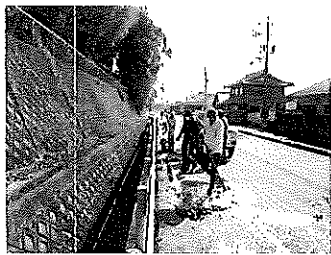
## 【単独改修】大山田中学校大規模改造工事

最終契約金額合計	補助金額	市の起債額	市の一般財源
407,118,800	27,836,000	202,600,000 内12,270,000は交付税措置あり	176,682,800

# 伊賀米の未来

## 農村地域の今と昔

伊賀市の集落地域の稲作は、「水ぬるむ4月」に入ると一斉に、農業用水路の泥上げ作業をしながら、田植えの準備が始まります。耕作面積の多い少ないに関わらず、稲作農家世帯から一人が水路の清掃作業に参加するのが通例で、当時の不整形で小区画の地権者でもあった多くの住民が、この水路の一斉作業にも参加していました。



昭和50年代になって、伊賀市内の集落農業地域の「圃場整備」で、1区画3反(約30アール)以上の耕地整理と農業用水路の整備事業が完成しました。このため農作業の機械化が一時的には進みましたが、長期にわたる「コメ減反政策」や米価下落、低迷が続いた影

響で、農業機械の更新が困難な多くの零細農家が離農し、委託生産を受けた大規模に集積された水田農地が生じました。ここでは自動運転できる田植え機、ドローンの利用による農業広域散布や肥料散布・作業効率化のため大型農業機械が導入され、先進的な技術で大規模水田面積を経営する集落営農法人などが見受けられるようになりました。

このため水田農地を地域資源として重視している国では、新たに農地・水・環境保全向上対策制度を創設し、地域で設立した環境保全会組織が、多面的機能支払い交付金として「圃場整備」周辺のエリア面積あたりの国・県・市からの補助金を得て、農地の維持・資源向上・長寿命化の活動を継続して進めています。この組織は地域の営農組合や水利組合などの団体が中心となって、多くの住民の協力も得て成り立っている活動組織です。伊賀市の将来推計されている生産年齢人口は、2020年から2040年までには、2万人以上が減



少するとされています。稲作農業者の高齢化と担い手不足により、営農環境に対する悪影響がこれ以上出ないように地域住民の協力が引き続き必要ですが、50年以上経過した農業用灌漑施設などの老朽化は、想像以上に進んでいます。広範囲にわたる水田面積に十分に配水できないと、稲の生育に支障が起りかねませんし、耕作放棄地の増加に繋がります。草刈り作業や泥上げ作業は酷暑の中で、いずれも重労働です。これらの作業を軽減化できる「農業用水路のパイプライン化」の事業は、今一番求められているのではないのでしょうか。早期の対策が望まれます。

(投稿・上田のりひさ)

# 市長自慢???の “子育て支援”、広報費 2度の否決!

日経新聞一面に伊賀市を広告するための予算が二度にわたり否決されました。その否決の理由は「効果が見えない」と議会の意思が示されました。また、本年6月定例会議に再提出されました議案には、有名なインフルエンサーを起用して(伊賀市には全く関係のない人、子育ての充実を宣伝してもらおうとした、虎の威を借る狐?他人のふんどしで相撲を取る?)の要素満載で同じくその効果が見出せない、と予算が否決されました。

下段の表は、市長提案の議案について、新聞広告及びユーチューバーへの委託料を削減する事に、賛成が反対の採決結果です。市長の提案通りだと、効果の見出せないで削減が○です。要は、市長提案に対して議会からその予算を削減するべきが○で、その削減案に反対が×です。3月の議会で全員が否決をしたのに、3ヶ月後の6月の議会にどのような根回しが行われたかは定かではありません。

(投稿・桃井弘子)

### ●広告(R6当初予算)

款	項	目	事業名等	金額
総務費	総務管理費	文書広報費	広報戦略マネジメント事業	32,543千円
			情報発信業務委託料	32,543千円

令和5年伊賀市議会定例会 令和6年伊賀市議会2月定例会議における議案等に対する各議員の賛否一覧

○：賛成 ×：反対 -：近森議員は議長のため再議を除く採決に入っておりません。

採決日	議案番号	件名	議員名																			
			北山太加規	釜井敏行	西條エリ子	西田方計	増田温雄	森中秀智	川上善幸	北森和成	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	市川岳人	赤堀久実	田中宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳	
3月22日	発議第2号	議案第2号 令和6年度伊賀市一般会計予算に対する修正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月22日	再議	議案第2号 令和6年度伊賀市一般会計予算再議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



### ●広告(R6補正予算)

民生費	児童福祉費	児童福祉総務費	子育て施策情報発信事業	46,639千円
			広告料	25,443千円
			情報発信業務委託料	20,160千円
			旅費ほか	1,046千円

令和6年伊賀市議会定例会 令和6年伊賀市議会6月定例会議における議案等に対する各議員の賛否一覧

○：賛成 ×：反対 -：西口議員は議長のため採決に入っておりません。

採決日	議案番号	件名	議員名																			
			北山太加規	釜井敏行	西條エリ子	西田方計	増田温雄	森中秀智	川上善幸	北森和成	西口正康	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	市川岳人	赤堀久実	田中宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳
6月27日	発議第6号	議案第71号 令和6年度伊賀市一般会計補正予算(第3号)に対する修正	×	○	×	○	○	○	×	×	-	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×

# にぎわいの起爆剤となるか!?

## 旧上野市庁舎と忍者体験施設

にぎわい忍者回廊整備事業として、市指定有形文化財「旧上野市庁舎」(旧伊賀市役所本庁舎)に図書館とホテル、物販、カフェを設置し、武家屋敷跡の成瀬平馬家長屋門の敷地の中に忍者体験施設を建設するという事業が、官民連携のPFI事業として上野丸之内で進んでいます。

なると、同様のことが繰り返されないように、その内容をじっくりと精査する必要がありますと考えます。

いっぽう、忍者体験施設は、2025(令和7)年の大阪・関西万博開催までの開館に向けて、現在、建物の外観が完成している状

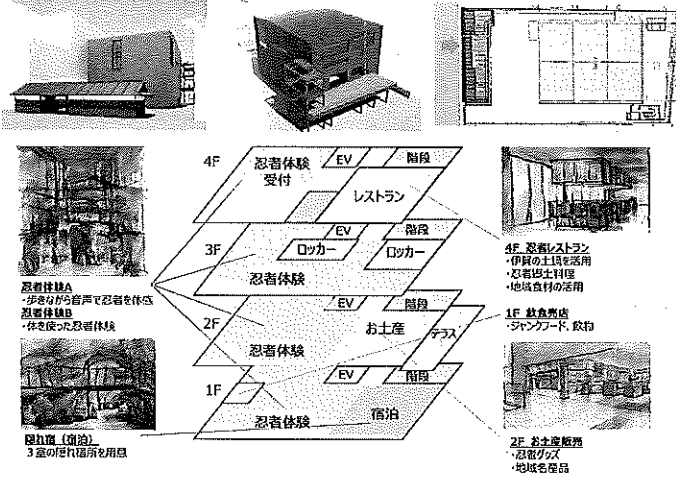
況です。新横浜ライオン博物館やNINJA AKA SAKAなど数多くの観光・集客施設を企画する相羽高徳氏を空間プロデューサーに迎えて、2025(令和7)年度は年間30万人の施設入込客数を目標とし、以降も年間12万人を目標としていますから、中

心市街地への回遊とともに、にぎわいの創出が期待されることと考えます。これがひいては、誇れる選ばれる伊賀市」として伊賀地域全体の活性化に繋がるよう、並行して有効な施策を打っていく必要があると考えます。

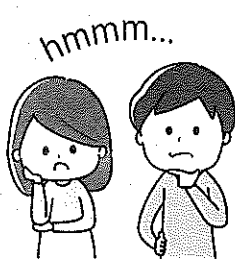
特に、旧上野市庁舎は、活用の提案が行政から示されるたびに市議会でも否決され、当初の合併債活用では3億円で改修できたものが、時機を逸したために市の負担が25億円に膨れあがったことは、昨春秋発行の本紙創刊号に掲載したとおりです。

市指定文化財であり、有名な近代建築家である坂倉準三設計の旧庁舎を活用することに異論はありませんが、追加費用が市の税金でまかなわれると

○忍者体験施設(案)



旧藤堂藩の城下町の風情がある中心市街地への回遊をどのようにつなげていくのか、地域の住民によるおもてなしの気持ちや醸成することともに、伊賀鉄道上野市駅(忍者市駅)の地下道はどのようにリニューアルしていくのか、本町筋とを繋ぐ新天地アーケードのまちづくりはどうするのか、エリアマネジメントの観点から、しっかりと舵を取っていただき、次世代へと繋ぐことができるよう、行政に訴えていきたいと考えます。



### だんじり初の消防訓練



## 文化の継承 “繋ぐ” 街の思い

今年1月28日、伊賀市の文化財防火デーに伴う消防訓練で、初めて、ユネスコ無形文化遺産であり国指定重要無形民俗文化財である「上野天神祭のダンジリ行事」のだんじり(楼車)に関して、消防訓練が行われました。

かつての上野城下町の家並みが続く中心市街地では、だんじり蔵周辺から火が移ることに対する防火を考えておく必要があります。

だんじりは蔵の中では、飾り幕、飾り金具などの、いわゆる懸装品を取り外して、骨組みの状態に覆い幕を掛けて収納しています。また、およそ2トンの重さがあるだんじり本体の、車軸と車輪に負担をかけ

ないため、ウマと呼ぶ台の上に載せて、だんじりを地面から浮かせて収納しています。

このため、初めての訓練であったとは言え、だんじりを蔵から曳き出すだけで、15分以上の時間を要しました。

だんじり蔵周辺の火災に備えて、いざという際の民俗文化財を守るマニュアル作りが必要です。また、放水銃設備やドレンチャージャー設備を設置することも有効であると考えます。

防火意識の啓発とともに、こうした民俗文化財の火災への備えについて、取り組んでいきたいと考えます。

(投稿 増田たけし)

# ほぼほぼ空気の公共バス 4億5千万円のたれ流し

伊賀市から、行政満足度を把握する伊賀市まちづくりアンケートを毎年実施しています。が、毎回、その満足度の最下位、24.3%しか満足をいたしていないのが、公共交通政策。つまり、市民にとって、この行政サービスはあてにできないと酷評されています。


しかし、市民にとって一番身近な公共交通機関といえばバスになりますが、それに係る費用(税金)は、令和6年度に4億5千万円余りを要しています(伊賀鉄道を除く)。

一方、高齢者社会の中で、運転免許証の返納が相次いでいることにより、益々、域内移動に困難を生じてきています。

**種類別バス委託料**

- ◆行政(コミュニティ)バス  
約8千万円
- ◆廃止代替バス  
約8千万円
- ◆スクールバス  
約2億9千万円

**計 約4億5千万円余**



現在、伊賀市内には、住民自治協議会は39団体あります。単純に39団体で4億5千万円を割ると、約1億150万円程度が各住民自治協議会に割り当てられ、学校や通勤、お買い物、または、お医者様、市役所はじめ行政機関、そして、お友達宅への訪問などに便利にお使いいただくことができます。同時に、伊賀鉄道やJR、近鉄との連携まで視野に入れると、更に利便性は向上します。

行政に提言は常にしつつも、実現はされません。交通政策課から交通戦略課に課名が変更になっても税の費用対効果の意識が低すぎます。

これこそ  
税の無駄遣いですね！

去る3月22日、2月定例会会議の採決に際して、道の駅あやま及び周辺公共施設敷地の民間貸付協議案が、反対多数で否決されました。

このことを受けて、3月29日に本会議が開かれ、道の駅の運営やその他の施設の維持管理に補正予算が提出されました。

プロポーザル方式で優先交渉権者の提案は、家賃(市民の収入)およそ2100万円(年間)で、今まで伊賀市が税金で管理運営委託していた費用(税の支出)が約4000万円。トータル上下6000万円の税の無駄遣いが解消(新たな財源を確保した)されようとしていました。結果否決でした。賛否については、伊賀市ホームページをご覧ください。

従いまして、補正予算としてまた税金が投入されることになり、その金額は2039万4千円です。

以前、上野丸之内の旧伊賀市役所本庁舎(旧上野市役所庁舎)の活用議案に対して、反対に次ぐ反対により、概ね同じコンセプトの改修修理や業務委託に係る税金が、3億円程度から25億円になってしまったことと同じ。

議論を促へ、結果を想像し、市民にとって最適な方法を見出すのが行政と議会。さて、その責任は市長？議会？それとも双方？

# やっと市長と議会の 同日選挙実現！

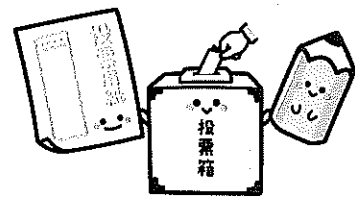
〔経緯〕

2004(平成16)年11月1日に1市3町2村が合併して伊賀市が誕生しました。議員在任特例を適用したため、市長選挙の約5か月後に市議会議員選挙が執行され、今日に至っています。

割の地域から同時選挙に賛成との意見がありました。

これらの結果を受け、住民の意見に添えて、将来にわたっての経費削減(3千万円程度の削減と言われています)と投票率の向上を図るため、2023(令和5)年10月緊急会議において、2025(令和7)年3月執行予定の市議会議員選挙を2024(令和6)年11月執行予定の市長選挙に併せて、同時に執行するべく自主解散決議案が提出され、採決に参加しない1人の返席議員はいたものの、全会一致で同日選挙の決議が可決されました。

(投稿・田中さくら)



## 編集後記

▼従来1年を4回の定例会と区切って開催していましたが、1年を通して1回の会議にして、いつでも市議会が開催できる仕組みに改めました。よって、議会の監視機能が向上したことになります。▼今年1月19日に、名張市議会と共催しました勉強会は、地方議会におけるBPMの推進について、客観的な事実(B・E・ヒアンス)に基づいて(B・ベース)、政策(P・ポリシー)を作り上げる(M・メイキング)の重要性が議論されました。▼つまり、根拠や証拠事実に基づいた政策決定が、厳密に行われることが重要とされています。そこには、1、政策立案の前提となる事実の認識。2、立案された政策とその効果と結びつける理論。3、政策のコストと効果の関係。▼ここに、「お手盛り」や「配慮」または「裏工作」が全く不必要となり、初めて納税者の納税満足度をいたがける市役所と市議会が存在することになります。▼従来、為政者の価値判断でありました、一部の団体や地域、今だけ、自分だけを超越する政治の仕組みが完成します。▼さらには、既存の市役所の事業から財源を生み出す勇氣のある行政改革と、今一番支援が必要とされる行政課題を見定め、果敢に取り組み力量が問われているとも言えます。▼令和ネコのあくび創刊号をご高覧いただき、新聞やケーブルテレビでは伝わらない市政情報を期待すると、多くのご意見をいただきました。第2号を発刊できたことに感謝します。

(投稿・田中さくら)